

梅雨晴れの6月14日、参加者の善行が天に届いたのか、心地よい薫風に吹かれながら無事終了した。

参加者は7名、生粋の無線人で鉄人の如き達者な白井(大正15. 1月生)、何時も柔和で体型の変わらない岡部、明晰で器用な朝井、南極でオーロラを仰いだ健脚森本、努力家で責任感の強い岩沢、論客で知識豊富な植田の各氏と、喜寿を過ぎても無芸大食の加藤で完歩した。

古都鎌倉は見所満載ですが、今回訪れたのは皆さん大船駅近くの車窓から望まれる「大船観音寺」に上り参拝後、「玉縄首塚」を見て「県立フラワーセンター」での昼食後、古代人の住居とも言われる「田谷洞窟」を見るコースでした。「大船観音像」(S.35.4落慶＝約4千万円、高さ25m)は急な坂を上り、頂上からは大船駅周辺の市外が見渡せる。また、「大船観音像」の胎内にも入ることができ、法華寺の本尊も安置されている。

「大船観音寺」の境内には「原爆慰霊碑」が建立されており、毎年9月には被災者が集い慰霊祭が行われている。坂道を下り、ほどなく歩いて五輪塔のある「玉縄首塚」があり、その謂れが石碑に刻まれている。

ここから約1k程歩き「県立フラワーセンター」へ到着、入場は65歳以上は100円と割引かれる(身分証明証など必要)

「フラワーセンター大船植物園」は、S37年神奈川県農業試験場の跡地(63900㎡)に造成され、5700余の植物が植えられており、四季を通じて人々の目を楽しませ、時を忘れ荒んだ世相から逃れて清廉な心地になれる。

園内は幼児と戯れる親子などあり、爺さん達は木陰で食事をとり、思い思いに花々を鑑賞、駅前のバス停まで歩き、バスにて「田谷の洞窟」に向かう、洞窟はもと鶴が丘26坊の修禅道場と言われ、鎌倉時代開創と伝えられている。

洞窟は人手で彫られたもので1Kmにもおよぶ暗闇の迷路になっており、100体のみ仏が無言の説法を続けている。

3時ごろには駅に到着、近くの茶屋で「お疲れさん会」、現代世情、特に白井先輩の戦時中の無線利用の歴史など目を輝かせて聴きおよび時間を忘れる程でしたが、続きは秋のレクに;;と散会しました。 お疲れさまでした;;

